日本機械学会

支部ポリシーステートメント

（2016 年 2 月）

北海道支部ポリシーステートメント…… 107
東北支部ポリシーステートメント…… 108
北陸信越支部ポリシーステートメント…… 109
関東支部ポリシーステートメント…… 110
東海支部ポリシーステートメント…… 112
関西支部ポリシーステートメント…… 113
中国四国支部ポリシーステートメント…… 114
九州支部ポリシーステートメント…… 115

◆　◆　◆　支部ポリシーステートメントの掲載にあたって　◆　◆　◆

2015 年度支部・部門活性化委員会 *

日本機械学会の活動は学会構成員のボランティア活動で支えられているが，機械学会自体が重要な社会的存在になっていることから，学会として自らの活動を自己点検し，活動の活性化に取り組むと共に，活性化活動を実施している姿を対外的に示すことは重要である．この度，日本機械学会の重要な柱の一つである支部活動について，ポリシーステートメントという形で以下の 3 点を中心に，具体的な今後の活動方針とその実行計画につき，各支部に記載をお願いした．なお，この 3 点については，小豆畑茂会長が，今回，各支部にポリシーステートメントの記載をお願いするにあたり，特に期待をしている事項である．

（1）講演会の充実

講演会は会員にとって重要な行事であり，支部講演会が更に活性化されることを期待する．各支部の大学，研究機関，産業の特徴を活かした講演会の企画を期待するとともに，企業の若手技術者の参加が少なくなっている現状を鑑み，特に企業からの参加を促す企画をお願いしたい．

（2）産学連携の促進

学会は学究的な環境で仕事をする専門家と産業界で働く技術者で構成され，この相互交流の場を提供するのが活動目的の一つである．それぞれの技術者の抱える課題の中で，互いの協力によって解決できるものもある．先ずは，相互理解を深める機会を提供し，交流を促す一助となるような活動をお願いしたい．

（3）会員の多様化とコミュニティーの形成

学会の機能の一つは人的ネットワークの構築である．講演会は，情報交換に加えて，ネットワーク構築の場でもある．しかし，これだけでは不十分と考え，今年度の理事会は若手技術者の会（若手の会）を発足した．様々な企業に所属する技術者が意見を交換できる場を提供できる場を今後も提供していきたい．支部においても，学生，女性，外国籍の学生・研究者・技術者，シニアなど多様な層の取り込みと，ネットワークの形成に努めることを期待したい．

終わりに，今回，支部活動のポリシーステートメントを会誌に掲載するにあたり，短期間であったにもかかわらず，多大なご協力をいただいた各支部の支部長をはじめ，多くの関係者に厚くお礼申し上げたい．

* 委員長　但野　茂〔函館工業高等専門学校〕，幹事　伊藤宏幸〔ダイキン工業株式会社〕，委員　岩井善郎〔福井大学〕，渋川哲郎〔元　三井精機工業株式会社〕，戸枝　毅〔富士電機株式会社〕，福澤健二〔名古屋大学〕，星　朗〔東北学院大学〕，河合理文〔株式会社 IHI〕，品川一成〔香川大学〕，大隅　久〔中央大学〕
担当理事　副会長　姫野龍太郎〔国立研究開発法人理化学研究所〕，財務理事　福西　祐〔東北大学〕，企画理事　近久武美〔北海道大学〕，庶務理事　高田保之〔九州大学〕，広報情報理事　河野　治〔新日鉄住金エンジニアリング株式会社〕，常勤理事　久保田裕二〔一般社団法人日本機械学会〕

北海道支部ポリシーステートメント

支部長　大橋鉄也（北見工業大学）

H27 年度の北海道における有効求人倍率は約 1 で，全国平均の約 8 割程度にとどまっている．総就労者数 251 万人のうち製造業従事者は 20 万人（8.1%）で，その半数以上が従業員 50 名未満の中小企業に勤務している．このような状況下にも拘わらず一方では，第 2 次産業に従事する，または，従事する予定の人材が北海道内で生活する希望は強い．そのために良質な人材を北海道内で確保することが潜在的には可能であるという状況も存在する．

会員拡充と支部活性化

現在, 機械学会北海道支部の会員数は約 870 名であり, 大学・高専などの機械工学関係者の殆どが日本機械学会会員である．機械学会はアカデミックな活動を行う上で重要な媒体としての機能を果たしているが，このカテゴリーの会員数はほぼ飽和している．

学生会員は支部会員数の約 25% を占めている．したがって，学生員も北海道支部にとって重要な存在である．学生に対する入会勧誘は，学生会担当幹事が中心になって色々な機会を通じて行っており，毎年約 100 名の新規入会がある．しかし多くの学生は卒業と同時に北海道外に就職するために，年度当初に増加した会員数のほとんどを年度末には他支部へ送り出すということが繰り返されている．

会員拡充の一つの大きな課題は，製造業従事者の会員が約 160 名と極めて少ないことである．北海道にある企業，とくに規模がそれほど大きくない企業に属する機械技術者にとって，機械学会は遠い存在になっていると言わざるを得ない．会員拡充の観点でここに注目する．道内にある企業に属する機械技術者が魅力を感ずる学会運営を考えてゆくことが必要である．このことによって北海道支部の特色をもたせてゆくこともできるはずである．

おそらく，企業人から機械学会は情報発信・収集の場であると同時に広い意味での宣伝（製品・リクルート）の場であることを期待されていると考えられる．このことをより明瞭に意識し, 北海道支部は産官学のバインダーとしての機能を充実させ, 産官学の人的交流に実効性のある場を提供するとともに，学会の提供する情報が企業活動（研究開発と人材育成）にとって真の意味で重要なものになるように努めていく．

前述した通り北海道は中小企業の占める割合が大きいが，そのような企業では，製品開発や研究に十分な時間と費用をかけることが困難な場合もあると思われる．学会はこのようなニーズにマッチした技術情報を提供していくことも重要である．今後は，北海道立総合研究機構，北海道機械工業会，農業機械工業会等との連携を強化するとともに，北海道経済産業局等に働きかけ，技術開発に取り組む地元中小企業を取り込んだ産学官のネットワークを構築することを考えている．

支部講演会その他の活動

1960 年度に機械学会北海道支部が設立されて，今年で 55 周年を迎える．この間，当支部は支部講演会や，特別講演会，市民フォーラムなどの事業を通じて北海道地区における学術レベル向上や社会に対する啓蒙活動に貢献してきた．支部講演会は支部最大の事業であり，会員相互の学術情報交流の場となっている．しかしながら研究発表論文のほとんどは学校関係，とりわけ大学院修士課程学生の研究発表であり，企業からの発表はほとんどない．北海道支部が地域への技術貢献，産学連携の媒体としての役割をより明瞭に果たすために，支部講演会などの内容をみなおしていく．研究発表のセッション以外に，ワークショップやフォーラム, パネル討論, 企業会員に役立つ特別セッションなどを試行し，講演会の活性化を図るとともに，企業の技術開発に関する発表の場を提供し，「学」と「産」とのインタラクションの実現を目指す．また，技術開発に積極的に取り組んでいる小規模な企業に，産業技術フォーラム等の技術発信の機会を提供し，「産」と「学」・「学生」との交流の場を創造する．また即効的効果は少ないかもしれないが，現在「流体工学懇話会」「北海道メカトロニクス懇話会」「バイオメカニクス懇話会」「材料・材料強度・加工懇話会」「北海道新エンジンシステム懇話会」の 5 つの懇話会が支部に設置され，民間企業の人たちも加えた息の長い活動が続けられている．このような活動を通じて，産学連携の輪が広がり，北海道の機械工業・機械工学の発展，ひいては企業所属の会員増強に繋がっていくことを期待している．

シニア会の設立

2015 年度，北海道支部にシニア会が設立された．会員は 35 名となっており，年に 2 回程度の企業見学会・交流会を企画している．また，コミュニティー形成の一環として一般社会人に対する科学と技術に関する公開講座，小中高校生に対する理工学支援活動が検討されている．シニア会の発足後間もないが，支部講演会などこれまでの支部事業への積極的な寄与も計画されている．

距離の障壁とその対策

北海道各地域間の距離は大きく，公共交通網の整備は十分とは言えない．また各地域が特有の経済状況や産業構造を有しており，機械学会にもそれぞれの地域特性にマッチした企画が求められる．そのため講習会や市民フォーラムなどの事業は地域ごとに開催せざるを得ないが，一方で北海道支部の規模は小さく，様々な企画を立案し実行していく際にはリソース上の多くの困難がある．幸いウエブ経由の通信手段が手軽に利用できるようになってきた．今後はこれらの環境も利用しながら本部および他支部や部門との連携を密にし，多様な支部会員に興味を持ってもらえる事業を実施していくとともに，支部のホームページを充実させ，情報の発信・交換のハブとしての役割を更に強化していきたいと思っている．

東北支部ポリシーステートメント

支部長　桑野博喜（東北大学）

東北支部は，広く 6 県に約 1 500 名の会員が活動している．最近の東北地方には自動車や半導体など大規模な工場の進出が進んでおり，支部としても，産学連携研究や大学・高専における学生の教育を通じて機械工学の活躍の場を広げるべく，活動している．

以下に支部の活動の現状と将来展望を述べる．

(1) 支部講演会

講演会は学問の発展と学生の教育を担う支部活動の中核である．本支部では，秋季講演会（9～11 月）と総会講演会（3 月）において通常の研究発表を，学生員卒業研究発表講演会（3 月）において学部・高専学生の卒業研究発表を催行している．秋季講演会では，若手研究者を対象として優秀講演フェロー賞を選考している．また，優秀な研究発表を行った学生に対する表彰として，総会講演会では大学院生に，学生員卒業研究発表講演会では学部・高専卒業生に，それぞれ支部独創研究学生賞を贈賞している．

今後も秋季講演会，総会講演会，学生員卒業研究発表講演会を軸として各賞の贈賞を行いながらさらに充実を図っていく．支部の全会員のうち産業界の会員は約 450 名であるが，企業の研究者・技術者の講演会への参加や研究発表は，この会員比率を考慮しても現状ではあまり多くない．この点は，レベルの高い研究発表や応用のニーズに対応したセッション構成などにより，改善することとしたい．

(2) 産学連携

産業界・官界あるいは学界など東北地区の異なる各界に属する会員同士の共同研究・共同開発を促進し，広く機械工学・工業の進歩発展に寄与することを目的として，1993 年に支部独自の「技術研究賞」を創設した．以来，毎年多数の応募の中から厳選し，39 件に贈賞している．また，火力原子力発電技術協会東北支部主催の講演会等に協賛し，交流の機会を会員に提供している．

今後は，面的に広がっている東北支部の特色を生かし，多くの会員校で，産業界の技術者による特別講演会などを開催し，相互理解の機会をさらに増やすこととしたい．

(3) 会員の多様化とコミュニティーの形成

東北学生会は，高専・大学 17 校からなり，それぞれの地区で発表会・見学会など年間 70 件余の行事を催行し，会員学生に研鑽や市民交流の機会を提供している．また，各校のオープンキャンパスの機会を利用した学会の展示や児童・生徒向け企画への参加により，小・中・高校生徒へのアウトリーチ活動にも努力している．上記の努力を今後も継続することとする．

シニア会も昨年から始動し，今後はさらに会員数を増やすための勧誘や活動方法の策定を進める．

なお，東北支部が 1965 年に設立されてから 50 周年を記念して，50 周年記念行事を 2014 年 9 月 5 日に開催した．学会に 50 年以上在籍した会員を対象とする支部功労賞受賞者 24 名のうち 12 名の出席者や他学会東北支部長等来賓，阿部博之第 74 期会長，久保司郎第 92 期会長を含めて 82 名の出席があり，盛会裏に終了した．

東北支部活動実績（2014～15 年度）

開催日	行事名	会場	参加者数	備考
2014.6.5	支部ニュース発行	−	2 200 部	支部長挨拶，2013 年度表彰報告
2014.7.4	中学生モデルロケット製作打ち上げ講習会	由利本庄市岩城中学校 他	178	主催：秋田大学理工学部システムデザイン工学科　参加者：中学生・高校生・教員
2014.8.6	支部見学会	産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所	15	機械の日記念行事
2014.8.17	中学生モデルロケット秋田県大会	能代宇宙広場	106	
2014.9.5	支部第 50 期秋季講演会 支部創立 50 周年記念式典	東北学院大学 仙台ガーデンパレス	128 82	講演件数 80 件
2014.9.26	支部見学会	仙台火力発電所	17	
2015.3.10	東北学生会第 45 回学生員卒業研究発表講演会	八戸工業高等専門学校	224	講演件数 128 件
2015.3.13	支部第 50 期総会・講演会	東北大学	220	講演件数 131 件
2014 年度	支部特別講演会	福島大学等 5 校	計 264	
2015.5.13	中学生モデルロケット製作打ち上げ講習会	湯沢市立皆瀬中学校他	194	主催：秋田大学理工学部システムデザイン工学科　参加者：中学生・教員・保護者
2015.6.5	支部ニュース発行	−	Web 公開	
2015.7.29 ～ 30	夏休み子ども科学キャンパス	東北大学	274	機械の日記念行事 東北大学・仙台市教育委員会と共催
2015.8.16	中学生モデルロケット秋田県大会	能代宇宙広場	115	
2015.9.26	支部第 51 期秋季講演会	福島工業高等専門学校	113	講演件数 61 件，懇親会
2015 年度	支部特別講演会	八戸工業大学等 4 校	288	
2016.3.4 （予定）	東北学生会第 46 回学生員卒業研究発表講演会（予定）	福島大学		
2016.3.11	支部第 51 期総会・講演会（予定）	東北大学		

北陸信越支部ポリシーステートメント

支部長　川越　誠（富山県立大学）

北陸信越支部は，福井，石川，富山，新潟，長野の5県から構成されており，東西に長いかなりの広域圏である．JR北陸新幹線が金沢まで開通したことにより長野県の存在はより近くなったが，それに伴う在来線特急の廃止によって逆に遠くなった（不便になった）県もあり，支部内の移動は依然として困難さを伴っている．しかし，そのような事情にもかかわらず，これまでも支部5県は各々の特長を生かした活動を活発に行ってきたし，互いに親密に交流してきた．これには支部事務局を一貫して金沢大学に置くことによって，支部活動が統一性をもって展開できたことが大きく作用していると考えられる．

このような支部の姿は，現会員はもとより，多くの先達によって育まれてきたものであり，創設以来50年以上を経た現在，改めて感謝と敬意を表するとともに，言うまでもなく，さらなる発展のために創意工夫を続けていく必要がある．そこで，以下に，支部の現今の課題を述べ，それを踏まえた将来展望を示したい．

1. 支部の課題

本会が支部から構成されていることを考えれば自明であるが，本会と同様の問題，すなわち，会員数の減少傾向が大きな課題である．そして，同じく，30歳前半の若手技術者の学会離れが深刻な問題で，これは学会全体（本会，支部）の将来を危うくする．問題解決のためには若手技術者が機械学会（当支部）に望むものは何かを的確に把握する必要がある．まだ，実現できていないが，当支部ではアンケート調査等も検討している．それらにより学会への入会者および講演会等への参加者の増加策が見えてくることが期待される．

以上は長期的視点に立ったものだが，短期的には，支部会員数の減少は支部交付金の減少に直結するから，自前で収益を上げる努力を必要とする．もちろん，収益増大が学会活動の目的ではなく，あくまで，学会員にとって有益な事業を実施することが大前提である．また，支出削減も同時に重要である．これには支出内容の細かなチェックを事業ごとに徹底する必要がある．

2. 支部の将来展望

以上を踏まえて，主な支部活動について現況と将来展望を示す．

(1) 支部講演会の充実

特別講演会を県単位で年3回ずつ開催している．各県の地域性を生かした講演会を県幹事が工夫して実施している．しかし，他支部の状況を参考にすると，地域の産業上の特色を反映した有料の講習会も各県で開催されてよいように思われる（講演会がすべて置き換わる必要はないが）．地域産業への貢献と参加費による収益増が持続的に見込める点で有益と考えられる．

支部総会と同時に行われる講演会は支部会員の研究発表および相互交流の場として極めて重要である．各県持ち回りで毎年3月上旬に開催しており，本年で53期，すなわち53年の豊富な実績がある．内容を充実させて，企業参加者の増加を促進し，参加登録費を増額しても見合う事業としていくことが重要と考える．そのためには，講演において大学等の教員もこれまで以上に自ら研究発表する必要があるように思われる．また，企業の技術内容を紹介する有料の展示ブースの設置も有効と考えられる．これらは，次に記す産学連携にもつながるものと期待される．

(2) 産学連携の促進

どの大学等も各々の産学コーディネータ等が仲介して連携事業を展開しているが，その多くは当該県内に限られた産（官）学連携である．そこで，支部における産学連携の促進策として，支部内の越境型連携が考えられる．具体的には，各県単位の特別講演会（講習会）に他県から大学等の教員あるいは企業技術者が参加する，3月の総会・講演会における企業展示ブースを活用して技術者と大学等教員が交流する，などの形態が考えられる．これらの実現のためには，メール活用等によるきめ細かな事前の広報が重要となる．

(3) 会員の多様化とコミュニティーの形成

学生会活動は，学生が学会について理解を深め，相互に交流し，若手企業会員となっていく素地を育む重要な活動である．各県単位で，あるいは大学等の単位で活動が行われており，3月上旬の支部総会・講演会の前日に学生員の卒業研究発表講演会が（他支部と同様に）行われている．当支部では，この発表会でも，有料の企業展示ブースを設けている．学生が実際の技術に触れる良い機会となり，教育上有益と考えられる．

一方で，他支部より少し遅れたが，当支部のシニア会も2016年3月には正式に発足予定である．シニア層が現役世代や上記の次代を担う若い世代と交流することで，機械工学・技術および技術者の魅力が伝えられれば，世代を超えた縦のつながりにより支部活動も一層強化されると期待される．それは，支部の課題である若手技術者の学会離れを食い止めることにも寄与するであろう．

3. 支部活動の今後の要点

以上のまとめであるが，この数年は当支部が今後充実した活動を展開するための重要な時期と考えられる．要点としては，①事業の収益増と支出削減による支部財政健全化，②講演会や講習会の充実による会員サービスの向上，③シニア会活動の定着，があり，これらが有機的に連関し，機能することが重要である．

関東支部ポリシーステートメント

支部長　佐々木直哉（株式会社日立製作所）

1. 関東支部の現在

2015 年現在，関東支部には，日本機械学会全体の 40% に相当する会員が所属しており，その数はおよそ 14 230 になっている（内学生会員は 776）．会員企業の数も 376 となり，支部としては，学会最大の規模となっている．しかしながら，現状，2010 年度が 15 027 に対して，2014 年度は 14 254 と会員の減少傾向が顕著に見られる．今後の活動の新規性，活性化が望まれている．

関東支部は，支部全体の活動と，この活動とは別に関東地方の 1 都 6 県に山梨県を加えた 8 ブロックに分かれて各ブロックが中心となった活動が大きな特徴になる．従来からの小中高生も含めた人材育成活動としての工作教室や，セミナー，見学会，産官学との交流会等の地域社会に密着した各ブロック活動のさらなる活性化を図っている．支部全体としては，「機械の日」イベントや講演会，関東学生会活動に加えて，見識と経験を豊富に持たれているシニア会員の活躍の場や支部独自の視点から見た講習会等の新たな施策をいくつか提案，検討している．会員減少や収益向上等の課題に対しては，関係者で課題を共有し，改善策の検討，支部ステータス向上を進めている．図 1 には過去 5 年間の講演会や見学会等の事業開催総件数の推移を示しており，徐々に活動の活性化が図られている．

2. 支部がめざす方向性

これからのものづくりは，産業の急速なグローバル化により，国内においては，人的，経済的，技術的な空洞化や変化が進み，海外の生産現場においては，人，もの，情報，技術等に係わる種々の問題が生じてくると思われる．また，大量生産するという「従来のものづくり」から，3D プリンタ，IoT（Internet of Things），ビッグデータ等の新しい考え方や仕組みの登場により大きくパラダイムが変わる可能性が議論されており，今後，IT やシミュレーション，センシングなどとものづくり技術の融合等の新しいものづくり概念が必要になってくると考えられる．一方，上記で示すような新しいパラダイムでは，地域のポテンシャルを最大限に発揮した産業やものづくりが大いに期待されると考えられる．

上記背景のような新しい時代の流れの中で，これからの機械工学が直面する課題と期待は，例えば，

1）要件・仕様が決まらないものと決まるものが混在する不確実な環境でモノやコトを作る，2）従来製造方法の制約を受けない自由な形状や特性を作れる，3）生産，物流の形態が大きく変わる，4）ものを創造する教育が身近になる，など，様々でダイナミックなニーズに対応した魅力的な学問体系が望まれてくる．

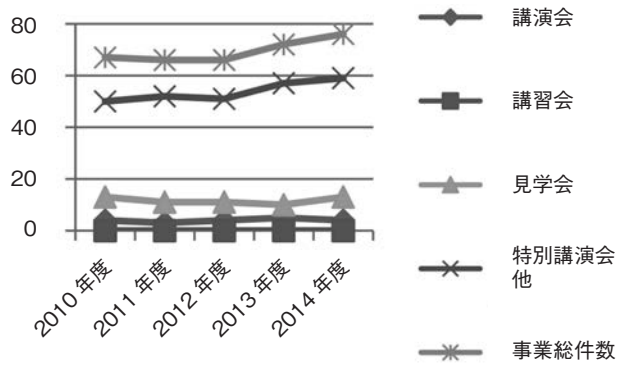

図 1　関東支部の事業開催件数

こういう状況において，要素を含め，全体を俯瞰してものづくりをまとめるのは機械工学技術者に期待されるものであり，企業と大学，公的機関等が縦と横でつながり，知のネットワークをうまく形成することで新たな気づきが生まれる仕組みとして，支部活動の役割は今後大きくなると考えられる．そのためには，支部に参加している多様なメンバーが魅力を感じられるような，やりがいのある支部活動の体系を構築していくことが大事である．

以下，魅力ある支部活動を行っていく上での項目を，いくつかの視点で考えてみたい．

1）講演会の充実

関東支部の講演会は，会員にとってとても重要な行事である．2014 年度は横浜国立大学にて開催することができた．2015 年度も，東京工業大学にて開催予定であり，開催準備を進めている．ここでは新たに，会員と会員外の料金格差を設けた点（これまでは講演発表者であれば会員外でも会員料金適用だった），卒研発表者の講演会無料聴講，講演会参加者の卒研無料聴講を実施し，相互の行き来を図るなどを試みる．また，技術講演に加え学生の卒業発表会の同時開催が継続的に行われ，学生会員への学会への加入促進アピールの場も特徴である．しかしながら，企業視点で見ると，ものづくりの基盤である機械工学基礎分野の人材が不足している傾向が見られ，一方，ビッグデータや情報技術と機械工学の連携，融合が今後大事な分野と言える動きの中で講演会のテーマ構成や発表形式などの見直しや変革の必要性が出てきている．講演会では，産業界にとって魅力的な，企業から見て高い専門性の研究開発の議論ができる仕組みも検討していくべきである．また，学生の発表練習の場と企業の発表を分けた形式，会員限定などのある程度のリスクを覚悟した試みが今後必要と思われる．講演会のコンテンツ議論には主催大学と企業メンバーの混合チームでアイデアを議論する仕組みも検討すべきである．

2）産学連携の促進

これまで，関東支部では，20 年以上産学官連携行事を行っているブロックもあり，ブロック中心に進めてきたが，今後は支部本体としても活動の強化が望まれる．

多様な業種と大学の情報交流サロン，テーマ別専門部会や研究会の設立検討．各県の公設試験研究機関と企業，大学の交流会，成果発表会等の計画立案．他の支部で効果が出ている工夫点を学びながら，学生への進路・技術情報提供，交流の場などの工夫が今後検討すべき視点になる．

3）会員の多様化とコミュニティーの形成

多様化の視点では，女性会員やシニア会員，さらに海外会員などの参画，活性化が今後必要と思われる．

まずシニア会員に関して，2015 年度はシニア会の設立準備会を立ち上げ，2016 年度では正式なシニア会活動を開始する予定である．女性会員や海外会員の参画化や世代間のつながりの活性化等，今後検討していきたい．

4）講習会の充実

2015 年度は初めての試みとして，支部本体主催の講習会を開催した.「ビッグデータと機械工学」と題して，その考え方から応用例までを著名な講師の方々により講演が行われた．お陰様で，定員を相当オーバーする参加者があり，継続的にワーキンググループを設定して，内容を充実させながら，できれば数回 / 年のペースで実施して行ける連携体制作りを進めていく必要がある．2016 年度には事業企画委員会を立ち上げ，当面年 2 回の講習会を企画していく．また，関係する部門との連携のかたちも議論していくべきである.

5）学生会の活動

将来のものづくりを担う技術者の育成，技術の伝承等を図るために，学生会活動は行われており，学生全体の交流会や工場見学ツアーの企画,「メカライフの世界」展への協力，技術者講演会等が開催されている．特に，学生会担当幹事の尽力でここ数年学生会活動が活発化し，特に 2015 年度は 6 回開催予定である，学生の主体的活動が目覚ましい.

また，支部講演会と併催して，卒業研究発表講演会を開催し，優れた口頭発表には BPA（Best Presentation Award）が贈られる．新しい試みとして，2015 年度は，企業技術者との交流会を関東支部としては初めて開催した．非常に有効な交流の場になっており，支部活動の特徴行事として継続，発展させていきたい．さらに，2016 年 3 月開催の学生員卒業研究発表講演会で，幹事校役員が BPA 審査作業等で参加，協力する予定である.

6）情報の発信

インターネット，IT 技術，SNS 等の普及により，多くの情報発信の機会が増えている中で，支部としての進め方も変わっていくと思われる．ホームページや「メカトップ関東」等の情報媒体の発信以外に，会員にとってメリットがある新たなコンテンツや情報活用の仕組みの提案ができるように，検討して行きたい．また，インフォメーションメールの有効活用も進めていきたい.

3. 各ブロック活動の状況と展望

これまで，支部を構成する 8 つのブロックが工夫を凝らし，各ブロックのリソースを有効活用し活動を行ってきた.

東京ブロックでは，地域貢献の観点では，小中学生のためのメカ教室や親子スカベンジャー教室など，技術者向けには,「メカライフの世界」展対応, ラウンドイブニングセミナーとして，毎回最新の課題をテーマとしたセミナーを開催している.

神奈川ブロックでは，地域貢献の観点では，小中学生工作教室や小中高校生向けの工場見学会を開催している．技術者向けには，神奈川県産業技術センターと連携して，フォーラムや産官学交流会等の開催を行っている.

埼玉ブロックでは，地域貢献の観点では，ロボット工作教室や工学・科学技術と親しむ会，ローバーロボット大会などを開催している．技術者向けには，イブニングセミナーや研究所見学等を開催している.

千葉ブロックでは，地域貢献の観点では，木更津工業高等専門学校を会場に，オープンキャンパスやサイエンスフェスティバル，親子スカベンジャー教室を開催，技術者向けには，先端技術フォーラムや風力発電コンペ，数多くのオープンラボを開催している．また，中高生を対象に，機械工学講座も行っている.

茨城ブロックでは，地域貢献の観点では，小中学生を対象に，ものづくり教室や「機械の日」関連行事として，おもしろ科学セミナー, ものづくり体験・理科工作教室, サイエンスセミナーを開催している．技術者向けでは, 女性技術者のための懇話会，企業見学会，さらに，産官学合同の成果発表会等を行っている．また，茨城講演会を毎年，茨城大学にて開催している.

栃木ブロックでは,「機械の日」関連行事として，工作教室等を開催している．産学連携，技術者向けに県産業人クラブとの交流会等を，学生向けには，学生研究交流会や知的所有権に関するセミナーを開催している.

群馬ブロックでは，地域貢献の観点では,「機械の日」関連行事として，高校生を対象に 1 日体験機械教室や小中高校生向けのメカメカフェアを開催している．また, 小中学生向けには，機械の学校，子供体験教室を行っている．学生向けには工場見学を開催している.

山梨ブロックでは,「機械の日」関連行事として，山梨大学において，ロボット組み立て，パソコンで操縦しよう，というイベントを開催している．また，山梨講演会，ロボコンやまなしというコンテストも継続して行われている.

以上，各ブロック活動は活発に行われている中で，これからを考えるならば，いくつか大事な視点が考えられる.

1）これまで地域貢献として小中高校生向け，学生向けの多くの活動を行ってきており，引き続き継続性を維持しながら将来の理系人材の育成に推進していくことが大事である.

2）ブロックごとには，それぞれの課題があり，規模にも違いが見られる中で，特に規模や陣容が小さなブロックの活性化と他のブロックとの協力体制の構築が必要と思われる.

3）十分といえない点は，産学連携の視点と思われる．地域の企業とのコラボレーションや小規模でも，学生への進路・技術情報提供，交流の場などの活動をうまく効率良く進められる体制の構築が大きな課題である．シニア会との連携が効果的と思われるため，今後の連携が望まれる.

東海支部ポリシーステートメント

支部長　大久保陽一郎（株式会社豊田中央研究所）

東海地域は，自動車産業や航空機産業をはじめ日本を代表する多くの基幹産業が集中しており，日本のものづくりを代表する地域の1つである．この地域には，技術者や研究者が比較的多く在籍しており，これらの人々が出会い協創すればもっと大きなチャンスが広がると期待される．そこで東海支部としては，出会いの機会を多く提供できるように活動の枠を広げることに注力していく．

(1) 支部講演会の充実

支部事業では，会員に最新技術や基礎力を学ぶ機会を提供し自己研鑽を支援すること，最新情報の知見を深めると共に交流や出会いの機会を提供することをねらいに，基礎講座，講習会，見学会，講演会を実施している．各行事では，テーマ選定などで相互に関連を持たせたり，あるいは企業と大学が連携する機会になるように工夫して進めている．

当支部の代表的な事業として，科学英語によるプレゼンテーション講座がある．この講座には継続的に強いニーズがあり，毎年多くの受講生が参加して盛況である．今年第1回の「科学英語の書き方とプレゼンテーション」では66名が，第2回の「科学英語によるプレゼンテーションの実践」では108名が参加した．第3回として“実践の場”を初めて企画し，総会講演会で「英語プレゼンテーションセッション」を設け，英語講師のアブラハ先生による英語発表レビューを予定している．

企業から要望がある“若手技術者の基礎力向上”をねらいとして，機械工学基礎講座「機械設計」と講習会「四力＋制御」を企画した．「機械設計」は昨年度の反省を踏まえ内容の改善をして10月14・15日に開催し，参加者31名の満足度は高かった．従来はイブニングセミナーを他団体と共催していたが，今年は“「四力＋制御」にもう一度チャレンジし基礎力を高める講習会”を初めて企画した．この講師には学生からの評価が高い先生を人選し，“流体力学”と“制御工学”を12月7日に開催予定である．この講習会では4時間の講義を受けた後に，先生を囲む情報交換会の場を設け，受講者と大学教員が知り合う機会になることを期待している．

さらに続く講習会では，上記の基礎講座“制御工学”の関連で「制御技術の最新動向」を企画し，3件の講演と展示・デモを2016年1月29日に開催する．

講演会では，「ヒトに響くキカイのデザイン」で2件の講演を11月2日に開催し，69名が参加した．

見学会は，「ヤマハ発動機（株）袋井南工場；船外機生産」と「産業技術総合研究所中部センター」を企画した．船外機生産では38名（内学生13名）が参加し，80%以上が満足であった．産総研では研究内容紹介と関連設備を見学する．

第65期総会・講演会では，TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2016（TEC16）と命名し，特別講演「モータースポーツの浪漫」と題して，FIA-F1日本グランプリ公式委員長の松本洋氏〔（株）豊田自動織機 執行役員〕が講演し，モータースポーツへの興味や車の楽しさを伝えていただく．さらに，特別セッションでは，前述の“英語プレゼンテーション”と“じっくり講演してじっくり質問するセッション”の新企画もある．

(2) 産学連携の促進

「メカなび東海」は，東海4県下に拠点がある優良中堅企業と機械系学生との出会いを促し，機械系学生のキャリアデザインあるいは就職を支援する事業である．2014年度に企業選定と登録を開始し，今年の就職活動から活用をスタートした．学生のキャリア形成の一助になるようにと，東海学生会主催の卒業研究発表講演会で，登録企業から「こんなエンジニアになりたい」の発表や懇談会を開催した．

企業に向けては，各分野が企画している研究会や講習会への勧誘を行い，参加を促す取り組みも始めて，一部で実績を挙げつつある．これらの今後の継続的な発展により東海地区の中小優良企業の機械学会活動への参画を促して行く．

(3) 会員の多様化とコミュニティーの形成

「機械の日・機械週間」行事の一環として，2009年から昨年までは「小・中学生のためのハイテクイベント」を開催していたが，今年は内容を見直し，「小・中学生のためのものづくり体験教室：逆立ちゴマの科学と工作」を8月6日にトヨタ産業技術記念館で開催した．シニア会，刈谷少年少女発明クラブと浜松RAIN房の工作指導で，参加した57名の子供たちは切る・削る・色塗りする等，工夫をしながらコマを工作し，自分が作ったコマが逆立ちするかを確かめ，完成させる喜びを体験した．

本部主催の「機械の日・機械週間」の第10回記念行事が8月7日にトヨタ産業技術記念館で開催され，東海支部として協力した．記念講演では，「安心・安全」をテーマにして，3件の講演をいただき，講演会場はほぼ満員盛況であった．

一方，現役を退いた会員はシニア会に所属して，交流会，見学会や支部行事での各種支援をしていただいている．

(4) その他

東海地域には世界で活躍する大企業や伝統的な地場産業も多くあり，技術者や研究者は多数在籍しているにも関わらず，会員は年々減少している．この状況を打開する良策は見当たらないが，会員だけに限定しない貢献活動を増やすことが大切と考える．例えば，中小企業の優れた技術が世間に知られることが少ないということがあるので，世界トップの優秀な技術や企業を，東海支部賞として表彰し世間に公知し，さらには広く活用されるように支援する活動で世間に貢献していくことも考える．お互いが強味を良く知るということでは，「メカなび東海」事業をもっと活用する工夫もできると思う．

会員に向けた活動だけでなく，会員の枠を超えて，多くの技術者や研究者に広く出会いの機会を提供していくことで，中期的には会員の増加に結びつくことを期待している．

関西支部ポリシーステートメント

支部長　野村　剛（パナソニック株式会社）

(1) 関西支部の特徴

日本機械学会関西支部は，機械工学分野の仕事に携わる研究者／技術者の交流，情報交換の場として，また関西地方における機械工業に関する学術および技術の進歩発展をはかり，かつ工業の発展に尽くすことを目的としている．地域に基盤を置きつつ，機械工学を含む工業分野の将来に向けての積極的な提言を行い，常に全国に先駆けたユニークな活動を行ってきた．

具体的には，後述する通り研究発表・技術交流活動，情報提供活動，懇話会活動，学生会活動，シニア会活動および技術情報誌の発行等を積極的に展開している．

(2) 活動の枠組み

関西支部は，商議員を核とした専門部会の活動，9 に及ぶ懇話会を中心に開催する技術交流フォーラム，さらに地域と会員に密着した支部活動の一環として 1993 年度以来毎年刊行を続けている技術情報誌「MECHAVOCATION」と研究・技術発表会がある．

商議員・代表会員は，専門分野ごとに 5 つの専門部会に所属し，商議員会後に専門部会を開催し，定時総会講演会等の OS，講習会の企画・立案を実施している．支部活動の報告と意見交換は，毎年 3 月の支部定時総会，および年 3 回の商議員会を通して行っている．

また，毎月 1 回，企画幹事会および幹事会を開き，支部活動の企画・運営を行っている．学術普及・発展・育成活動として，年間計 6 回程度の講習会，同じく年間計 2 回程度の見学会，秋には企業の技術戦略・経営戦略に関するセミナー（ステップアップセミナー）を開催している．

関西学生会は，上記支部関連行事の他，会員校 10 数校の学生が一堂に会し 2 日間の日程で開かれる「メカライフの世界」展，支部定時総会に合わせて開催される卒業研究発表講演会を実施している．その行事を円滑に実施するために，年に 8 回程度，運営委員会が関西支部の全面的なバックアップのもとに開催されている．

2006 年 4 月に設立したシニア会は，月一回，定例会を開催し，企業見学会，学生会，企業技術者との交流，さらには小学生対象の夏休み理科工作教室の開催等，世代を超えた，また世代の橋渡しとなる交流を行っている．

(3) 具体的活動

講習会はデモ展示または実習を含めるよう企画し，聴講者から好評を得ている．各講習会においては聴講者からアンケートに回答していただき，講習内容の充実，ニーズの抽出，運営方法の改善をはかっている．2015 年度のステップアップセミナーは，「オープン・イノベーションが切り拓く新たな事業創造」と題して開催した．また時宜に応じた課題を取り上げ，2015 年 9 月には特別フォーラム「知財・標準化の国際戦略について考える」を企画・開催した．対外的活動としては，支部に所属する機械工学各専門分野の産官学の研究者の集まりである 9 の懇話会が主体となる技術交流フォーラムを毎年秋に開いており，この中でも企業と大学，学生との交流をはかっている．16 回目となる 2015 年度は滋賀県立大学で開催された．

第 90 期定時総会講演会は，2015 年 3 月に，3 日をかけて京都大学で開催された．この講演会から形態を大きく変更し，3 つのセッション（研究討論セッション，修士研究発表セッション，メカボケーション学生研究発表セッション）を設け講演会の活性化を図った．特別講演 3 件，卒業研究発表講演 411 件を含み，合計 737 件の講演があった．見学会・懇親会も同時に開催し，情報交換の場としている．

これらの活動を通して，地域の機械工学と機械工業の発展に寄与した顕著な功績または業績，ならびに支部の活動や行事における優れた成果や顕著な貢献を顕彰するため，日本機械学会関西支部賞を 1994 年度から設けている．学術・技術の振興，特に地域における産官学の共同研究や，地域に密着した技術・研究活動を奨励し，機械工学と機械工業の地盤強化，ならびに支部活動の活性化に寄与している．

さらに，関西地区の機械工学系学生と企業を結ぶ技術交流活動として，技術情報誌「MECHAVOCATION」を発行し，地域の卒業予定機械系学生，機械系学科・コースを有する全国主要大学，および協賛企業等へ配布するとともに，インターネットのホームページへの掲載，「学生のための企業技術発表会」の開催，「就職に関する企業と学校の交流会」の開催等を行い，産学交流の実をあげている．

関西学生会の「メカライフの世界」展では，近畿地区の大学・高専に所属する学生が協力して企画・運営を行い，機械工学の基礎となる物理現象を多数の多彩な実験装置で展示・実演している．例年盛況であり，バンドー神戸青少年科学館において，小中学生を中心に毎年 1 000 人近い参加者がある．

関西学生会卒業研究発表講演会では，Best Presentation Awards を設け，発表会への参加意欲の喚起，入会への動機付けにもなっている．学生会活動に対しては，会員増強のためにも今後とも積極的な支援を続けて行く．

最後に，関西支部シニア会の活動では，機械・産業遺産ツアーや企業見学会，学生会との交流会，小学生対象の「親と子の理科工作教室」を企画・実施しており，2015 年 9 月末時点で児童の累計参加者数は 2 904 名となり保護者の参加を含めると累計 4 300 名を超えた．また，理科工作教室を経験した児童をジュニア会友として勧誘し，ジュニア会友教室を今年度から開催し，継続的に機械工学への興味をつなげ，将来の機械工学分野に進学する学生の育成に努めている．さらに，大学からの講師派遣の要請や，企業からの技術支援の要請に対しても，積極的に対応し，関西地域における機械工学の発展や教育に貢献している．

(4) 今後の展望

わが国が少子高齢化に進む中，製造業の根幹である機械工業をさらに発展させるためには，機械に興味を持ち，機械技術を発展させる人を，より多く育成することが不可欠である．

そこで，関西支部では，会員数の増大に向けて，従来以上に，積極的な活動に取り組んでいく所存である．

中国四国支部ポリシーステートメント

支部長　森本和夫（三菱重工マシナリーテクノロジー株式会社）

(1) 支部講演会の充実について

支部の企画行事として2015年度の活動実績を下表に示す．

支部事業として最大の行事である学術講演会を総会に併せ毎年3月に開催しており，例年講演件数200件程度，参加者約400名である．しかしながら講演発表者の多くは修士課程学生で，企業からの発表は少ないのが現状であり，参加者も学生と指導教員が大半を占めている．“産”に対する魅力がない，という指摘への対応策として，まずは支部講演会に参加してもらうために地域企業から講演セッションの座長を出してもらうよう依頼しており，講演者（学生）には教員以外からの企業目線での質問を体験できる機会にも役立っていると考えている．また各企業の事業活動や技術を学生参加者に伝えるための展示会場を無償で提供しており，例えば例年中国経済産業局から「ものづくり日本大賞」受賞企業のパネル（20枚前後）を出展頂いている．さらに，支部賞受賞者には総会での表彰式の後に受賞の内容を講演する時間を設け，地区内企業の最新技術を学生にも紹介する機会となっている．

学生員卒業研究発表会は，次世代の学生にとって技術者／研究者としての経歴を始めるスタートである．学生会自らによって運営が行われており，発表・質疑も含めて多くの学生にとって貴重な経験となっている．また，優秀発表賞の審査にはシニア会員の方々の協力も頂いており，シニア会活動の重要な機会となっている．

秋季技術フォーラムは，特に支部に拠点を置く企業の技術を紹介し産学連携の情報を共有する場として5年前から始めたもので，各県持回りにより地元企業の方々にパネリストを依頼している．普段触れる機会の少ない地方企業の貴重な情報が得られる場として，活用していきたい．

特別講演会は各県において特色ある企画を毎年3件程度実施しているが，支部の面積が意外に広いので他県からの参加者はなかなか集まりにくく，当該県の学生が参加者の主体という傾向が強いのが課題である．

講習会は材料，熱流体といった要素技術を専門家に分かり易く解説してもらうもので，学生と，特に企業の新人を対象とした毎年の定期的な教育的行事として定着させていきたいと希望している．

以上の企画行事では，会場設備にもよるが，講演の遠隔配信も実施し，実施会場だけではなく広く中国四国地方を網羅して講演に参加できるように努めている．

(2) 産学連携の促進

各種講演会活動を通じての産学連携推進の他，1996年から地域の機械工学および機械工業技術の発展に寄与する顕著な業績に対して支部賞を贈呈している．このうち技術貢献賞では，対象として“支部地区内に事業所のある中小企業が望ましい”と規定して，地域における産学連携による共同研究や地域に密着した技術開発が応募し易い環境を促している．

さらにより専門的な活動として，3件の技術研究会が組織されており，産学官共同による専門集団として独自の成果に貢献している．

(3) 会員の多様化とコミュニティーの形成

“会員の多様化”という命題は，年齢，性別，国籍などの異なる会員が均等に分散する構成となることであろうが，支部内の女性会員は90名，外国人会員は51名，と決して多くはない．

若手会員については，学生会の活性化が一つの方策になる．現在支部内を6地区に分けて計26校の会員校が「メカライフの世界」展の開催などを中心にした活動を積極的に展開している．

学生会と年齢層の逆方向となるシニア会は，2015年3月に正式に発足し学生員卒業研究発表会に併せた講演会の開催などの企画を進めている．また既述のとおり，学生員卒業研究発表会での優秀発表賞の審査員を委託するなど，学生会との相互の連携を深めるコミュニティー形成に努めている．この他，大学での行事の支援，企業が必要とする技術相談などに関して，深い経験に裏付けられた貴重な活動を期待したい．

(4) 今後の方向性

産学連携の推進については，まずは双方の情報を知ることが重要であり，今までの対応で充分であったとは言い難いという反省の元に，支部の中で産・学双方のニーズとシーズを調べるためのアンケート調査を実施し，産学連携のあり方を検討していきたい．

支部内の多様なメンバーのコミュニティー形成のためには，支部と並ぶ学会内の横串である部門活動を今以上に有効活用して，シニア会・会員・特別員・学生員が一堂に集まる場の一つとしてネットワーク形成に役立てることに努めていく．

2015（平成27）年度 支部企画行事 活動実績

行事	開催日時	会場	参加者
第53期総会・講演会	2015.3.6	近畿大学工学部	395
中国四国学生会第45回学生員卒業研究発表講演会	2015.3.5	近畿大学工学部	414
秋季技術フォーラム「ぢばさん（地場産業）振興ものづくり－高知－」	2015.10.30	高知県産学官民連携センタ	45
特別講演会「移動支援ロボット技術」	2015.7.23	山口大学工学部	82
特別講演会「電力安定供給に向けた火力発電の現状と機械・材料系技術者の取り組み」	2015.10.16	愛媛大学メディアセンタ	20
特別講演会「燃料電池自動車MIRAIの開発とその魅力，今後の普及に向けて」	2015.11.13	鳥取大学工学部	104
第123回講習会「伝熱工学の基礎と温度計測等」	2015.11.13	岡山大学自然科学研究科	31
第124回講習会「機械工学の基礎講習会」	2015.9.18	徳島大学工学部 遠隔会場：三浦工業（株）	23 9

九州支部ポリシーステートメント

支部長　山田　明（三菱重工業株式会社）

[1] 九州における機械関連産業

九州における機械関連産業は，「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録されたように，明治初期の炭鉱開発を起源とし，鉄鋼，造船分野の発展を経た後，今日の自動車，集積回路，ロボット産業の発展につながっている．現在，九州北部を中心に自動車産業の一大拠点が形成されており，自動車製造業の出荷額は九州地域で最も大きく，部品・付属品製造業を合わせると自動車関連産業がかなりのウエイトを占めている．今後，自動車部品・付属品の地場調達率の向上に加え，九州大学に自動車産業を総合的に教育する大学院が設立されるなど，自動車開発拠点の九州地域への移管により，地場部品メーカーが自動車開発の上流段階から参画できるようになることが期待され，九州地域における自動車産業のなお一層の発展が予想される．九州地域では，ほかに，ロボット産業が注目される．産業用ロボットの世界有数メーカーのほか，ベンチャー企業を含めた関連企業も多く，大学研究機関の研究も盛んで，産業用ロボットの一層の普及のほか，サービスロボットの実用化促進が期待される．このように，ロボット産業分野は，九州地域の将来のビジネス分野として注目される．

これらのほか，有力重工業による船舶製造・修理業や，ほかにデジタルカメラ製造業も盛んである．また，機械製造業とは少し異なるが，半導体・集積回路製造業は，従来同様，九州地域での自動車産業に次ぐリーディング産業であり，九州地域には有力なグリーンデバイス関連企業も多く，更なる拡大が期待される．

[2] 支部活動状況

九州支部では，2 箇月毎に幹事会を開き支部活動の企画・運営を行っている．会員は，ここのところ，准員相当を含め正員約 2 300 名，学生員約 300 名，特別員 40 名の計約 2 700 名であるが，徐々に減少傾向にあり，また大学・高専等教育機関の会員が多く，他方企業正員は少なく福岡県と長崎県に集中して約 300 名に留まっている．主な支部行事としては，総会講演会と地方講演会の支部講演会を北九州地区また九州各県持ち回りでそれぞれ年 1 回開催し，ほかに，地区事業として，小中高校生向けの「おもしろメカニカルワールド」を含む公開講座，見学会を主とする事業を多数開催している．さらに，九州支部賞の授与を総会で行っている．また，学生会関係事業では，年 4 回の幹事校会のほか，学生向け卒業研究発表会を各県持ち回りで年 1 回，そして学生交流会や公開事業の「メカライフの世界」展などを実施している．

[3] 支部活動における将来展望

(1) 支部講演会の充実

上記のように，九州支部では総会講演会と地方講演会をそれぞれ年 1 回持ち回りで開催しており，総会講演会では講演 200～250 件，参加者 300 名程度，地方講演会では講演 110 件程度，参加者 170 名程度で推移している．しかしながら，いずれも，大学・高専関係者，特に学生の発表が多く，企業の参加は少ない状況にある．すなわち，支部講演会は，学生発表には有用であるが，企業技術者，特に若手技術者の参加には物足りない状況にあると言える．魅力ある見学会を併せて企画するようにしているが，まだ十分ではない．したがって，支部講演会の充実のためには，若手技術者の育成にも役立ち，参加が期待できるようなプログラムを用意する必要があり，フォーラム的な企業若手技術者セッションの企画のほか，大学等側から企業側に有用な知識を紹介する企画，例えば，大学年長者による研究関連技術の紹介や機械工学関連重要基礎知識の簡単な講義など考えられ，引き続き検討する予定である．

(2) 産学連携の推進

産学連携に関しては，講演会のほか，地区事業における技術フォーラムや産学連携フェアなど，技術情報交換の場を設け，活動を進めてきた．また，九州地区における機械工学ならびに機械工業の発展に寄与した個人また団体を表彰する九州支部賞を設け，産学連携の一助としている．さらに，福岡県を中心とし多数の民間企業や自治体，大学，国立研究所などが参加する「福岡水素エネルギー戦略会議」があり，人材育成も含めて，機械学会会員が参画し活躍している．産学連携の推進は支部講演会での若手技術者の参加にもつながるものであり，ここ三年とり止めていた技術情報を話題とする支部フォーラムの再開も，促進の場となることが期待できる．一方，九州地区で一番大きい自動車産業関連分野については，九州大学に関連大学院が設立されるなどしているが，機械学会会員の数が少ないためか，産学連携は進められておらず，自動車関連学協会との連携も含めて，一層の産学連携の推進を図る必要がある．

(3) 会員の多様化とコミュニティーの形成

学生員については，卒研発表会，学生交流会，見学会またオープンキャンパスや一般公開講座など多くの活動参加の機会を通じて，確保に努力しており，正員が幾分減少気味であるのに対し，学生員は若干ではあるが増える傾向にある．今後，種々の活動を通じて，女性も含め，入会勧誘を継続していく予定である．また，大学では留学生が増えている．講演会で留学生セッションを設けるなど，留学生への対応を検討する必要がある．主に県単位で実施している地区活動は，大学・高専側教員が主となるも，地区によっては企業会員も参加して，オープンキャンパス，公開講座，技術フォーラム等のほか，物づくり体験教室の開催など，支部活動を支える地域に密着した地道な活動を行っており，今後も継続することが重要である．さらに，これらの地区活動では，小中高校生を対象とした物づくり教室「おもしろメカニカルワールド」を開催しており，企画の講師やインストラクターとして企業 OB のシニアの協力が欠かせない．将来の技術者育成につながる若いジュニア層の開拓のために，今後も，シニア層の協力を得て，大学・高専の活動を広げる必要がある．